

発行者

NPO法人どんまい

〒791-0113

松山市白水台1丁目6-4

090-4788-9801

《創刊号》

どんまい便り

2006年5月

活動報告が遅くなり誠に申しわけありませんでした。

昨年10月6日の設立総会后、スタートの準備を進めてきましたが、1月23日付にて無事法人登記を終え、3月1日よりグループホーム、4月1日より作業所の運営をスタートしました。これも皆様のあたたかいご理解と支援のおかげと感謝しております。早くご報告をと気になっておりましたが、次から次に来る説明会、手続き、書類作成等に忙殺され、1号を発刊するまでに時間がかかってしまいました。今年度は、スタッフも増えましたので、もう少し活動報告ができるようがんばりますので、今後ともよろしくお願ひします。

障害者自立支援法が4月1日より施行されましたが、どこをとってみても障害者の自立を阻害する法律でしかありません。介護保険、医療制度等の改正内容も、国民にとっては目を覆うばかりの内容です。

困難な問題が山積しておりますが、ドンマイ精神で、何とか乗り切っていこうと思っています。今後ともよろしくお願ひします。

理事長 谷本圭吾

“グループホームどんまいハウス・こもれび” 運営スタート！

設立当初の予定では、H18年4月から松山精神障害者互助会ごかいが運営をしてきた“共同作業所へんな古本屋”の運営を引き継ぐことでのスタートを予定していましたが、松山市精神障害者地域家族会明星会が運営してきたグループホーム3施設が運営することができなくなったため、松山市、ひめかれん、NPO法人ほっとねっと、当法人が参加し、施設の継続を模索して協議を重ねた結果、そのうちの一施設の“グループホームこもれび”の運営を3月1日から引き受けることになりました。新たに“グループホームどんまいハウス・こもれび”としてスタートして、早3ヶ月目になります。現在5名の入居者の方がおられ、その方々の共同生活をサポートしています。

2月28日には入居者、ご家族、各関係者の方々、法人理事、スタッフに集まっていただき、法人の紹介、今後の運営についての説明会を行い、その後、入居手続をとっていただきました。入居者の皆様が、安心して気持ちよく暮らせるよう、スタッフ一同精一杯努力するつもりです。



グループホームどんまいハウス・こもれびの外観
銀天街のちょっと外れにあります。3F4Fがグループホームで5人の方が生活しています。



グループホーム運営説明会

(H17・2・28)

たくさんの方に参加していただきました。

@ 設立から現在までの法人活動の報告

法人設立よりスタッフともども初めてのことでスケジュールが山とあり、苦労しましたが、なんとかとか2つの事業をスタートすることができました。

H17

10/6	法人設立総会開催
10/17	県へ法人認証申請
11/20	第1回理事会開催

H18

1/17	法人設立認証（県）
1/23	法務局法人登記（同日付）
2/6	第2回理事会開催
2/15	グループホーム実施届け（県）指定申請（市）
2/28	グループホーム運営規定説明及び契約
3/1	グループホームどんまいハウス・こもれび運営開始
3/4	グループホームみなし指定申請（県）
3/6	法人設置・設立届け（地方局、課税課）
3/6	法人設立届（市・市税課）
3/20	授産施設等届（市）

H18年度 法人活動

4/1	作業所どんまいクラブ運営開始
4/5	障害者福祉サービス事業者台帳システム登録（県）
4/12	第1回法人事業運営会議
4/26	第2回法人事業運営会議
5/7	第3回理事会開催
5/10	第2回総会開催

知っていますか？精神保健福祉の現状

例えば、精神障害者グループホームの自立支援法による事業報酬は5人の入居定員で、一日一名当たり1800円です。5名で一日9000円。5名分で介護保険のグループホームの一人分の報酬です。しかも定員がわれたり、入居者が入院した場合は、その分報酬は人数分のみです。欠員ができると赤字になるわけです。それでも、4月からは一月毎の請求となるので、2ヵ月後には報酬が入ることになったので、少しはましになりました。

今までは、4月からスタートするその年度の事業費は来年

度の5月にしか受け取れませんでした。事業費のほとんどは人件費に当てられます。つまり、運営団体は1年以上の人件費や経費を立て替えて運営をしなければならないのです。作業所については、今年もそういう状況が続きます。職員は低い報酬で頑張らなければなりません。

熱意のある人の善意のみで運営をしなければならない今の現状が変わらなければ、精神保健福祉の改善はありません。

@ スタッフ紹介



谷本 清子

“どんまいクラブ指導員”

2年目になりました。

毎日元気で働いてくれているスタッフの自己紹介です。

ひよんなことから作業所の指導員として働き始め、2年目になりますが、13年間知的障害者施設で働いてきた私にとって精神障害者はなかなか理解しがたい存在でした。しっかりできることもある反面、その日の調子で、何もできない日もある。スタッフとは名ばかりで、一生懸命やってもやってもなかなか理解してもらえない。何かというと怒鳴られたりもする・・・毎日作業所のことや頭を離れず、ノイローゼのような時期もありました。

しかしよく考えてみると、自分自身が精神障害者の人達に対して無理解と偏見の眼差で勝手に創ったイメージの中に当てはめ、驕りのある自分がいたのです。知的障害者の人達は、国の定めた保育、学校を出て施設で暮らすことを余儀なくされ、施設や職員のいうとおりに生きるしかない状況を作られていたのです。そこには反発する自由さえ奪われていたのだと改めて感じさせられました。

それが、作業や活動を一緒にすることを通して見えてきた事は、ほとんどの方は自分なりに考え、納得すれば自分なりの行動がとれる。頭ごなしで物を言ったり、指示をするのではなく、コミュニケーションを取る事でその人なりの幸福観、価値観、人生観を大切にできているだろうか、「共生」「対等」「ノーマライゼーション」の福祉の理念がおせっかいになってないだろうかということを見極めて行く事がスタッフとしての大事な事だと教えてもらった一年間でした。まだまだ苦しむことの連続だと思いますが、一つ一つを噛み締めて、大事なことを見失わないようやっていきたいと思えます。



NPO 法人どんまいに就職して

皆さん初めまして。NPO 法人どんまいの職員、左古利雅と申します。私は、ついこの間の3月10日まで学生でした。そして3月13日からここNPO 法人どんまいのスタッフとして働いています。学生のときに、精神関係の勉強はしたものの、知識だけでは何も出来ません。私たちの仕事は物を相手にするのではなく、人間を相手にするものだからです。しかし、知識が不必要かといえばそうではなく、知識が足りなくてもっと勉強をしていけばよかったと痛感することも多々あります。と言うのも、メンバーさんと私との間には、まず距離があります。その距離のうめかたは学校では教えてくれません。今まで培ってきた社会性が問われる訳です。そしてある程度距離を縮めると、メンバーさんは悩みを教えてください。その悩みには、知識が必要なのです。分かりませんでは、また最初に逆戻りです。こういった実践ができて初めて、仕事が福祉職だと胸をはっていえるのだなと思知らされました。本当に厳しい職種だと感じた時でもあります。



左古利雅

どんまいハウス世話人

びちびちの新卒です。来年の1月には精神保健福祉士の国家資格に挑戦します。

こういった反省や失敗の毎日の中、振り返ってみると、作業所、グループホームに通いだして、早一か月経ちました。初めて社会人として働き、仕事の厳しさ、人間関係の不器用さが身にしみた一ヶ月でもあります。不器用なりに精一杯やってみるものの、やはり不器用なままでうまく仕事が出来ず、悩みの毎日でもあります。それでも少しずつ、少しずつですが成長している毎日です。

そんな中で気付きました。私はいろんな人に支えられ私は仕事をしています。作業所の谷本さんやメンバーさん。理事長の谷本さんや、グループホームのメンバーさん。目には見えませんが社員の方や賛助会員の方々。私はその大切なことを忘れずに、この仕事に誇りをもって毎日を歩んで行きます。お忙しい中、読んで頂きありがとうございました。



私はこれまで医療や福祉とはほとんど縁のない人間でした。20 年以上に渡って自営業を営んできたものが精神障害者の福祉にかかわらせてもらうきっかけとなったのは、息子が精神保健福祉士として仕事をし、当時求職活動をしていた私に「こんな仕事があるんだけど」と息子に誘われたのがきっかけでした。

私も息子から「大変やりがいがあり、一方ではとてもしんどい仕事だ。」とよく聞かされていたものの、正直実際の業務にあたっては半信半疑なところがありました。精神障害者ということで、やはり「怖いとか何かされるんじゃないか」という差別や偏見。そして何の知識もなく、ましてやなんの資格も持っていない中でどう接していけばいいのかという不安がありました。

息子から「普通に接すればいいよ。」「話を聞いてコミュニケーションが大事」とか「関係づくりからでもいいんよ」とは聞いていたものの、本当に今の私で大丈夫なのかというのが私の本音でした。しかし、当初抱いたイメージと大きく変わりつつあるのを実感いたします。メンバーさんの方が真面目で、礼儀正しくて、その一方で薬のせいで疲れやすく仕事も長続きすることが難しいということがよく分かりました。少し無理をすると次の日には休まれたりなど、障害を持つことの大変さが少しずつ分かってきたような気がします。

私から見ると、物事を考えすぎたり真面目すぎて世渡り上手ではないのかと思われま。又、それが原因で病気になってしまうのかも知れません。

私も当事者の方と接する前はマイナスイメージを抱いていましたが、実際に接することで、作業所という中で一生懸命生きられている姿を見てきたからイメージも変わりつつあります。私も微力ながら何とかお手伝いできればと思います。どうかこれからも皆様のご指導よろしくお願い致します。



竹本登茂子

どんまいクラブ指導員

仕事も2ヶ月目に入り、だいぶ慣れてきたようです。

どんまいクラブでは、自主製作商品として、封筒や包装紙を利用した再生ハガキを開発しました。今回お世話になっている社員、賛助会員の方にその商品を心を込めて贈らせていただきます。法人が作業所から買ったものです。一度手にとってみてください。



原料のカラー封筒や包装紙のカンパもお願いしたいところです。特に封筒は一枚でハガキ一枚でき、扱いやすいため、少々不足しています。ゴミ箱に入れる前にちょっと袋にでも貯めておいてご寄付頂けませんでしょうか。R100とか、R70と書いてあるものはリサイクル用紙を使ってあり、最適なのですが、それに限りませんので、ぜひご協力をお願いします。



どんまいクラブ店舗部の“へんな古本屋”です。この店が作業所の原型で、患者会“ごかい”の「病」者たちが英々と20数年間守り続けてきた“店番でほっとする”場所です。